別紙

ＩＣＴ活用工事（舗装工）計画書

当該工事において、施工プロセスの各段階および作業内容において、

ＩＣＴを活用する場合は、左端 のチェック欄に「レ」と記入する。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 施工プロセスの段階 | | 作業内容 | | 採用する  技術番号  （参考） | 技術番号・技術名 |
| □ | ①３次元起工測量 | □ | 舗装工 |  | 1 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量  ２ ＴＳ等光波方式を用いた起工測量  ３ ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた起工測量  ４ 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量  ５ その他の３次元計測技術を用いた起工測量（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。  ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。 |
| □ | 付帯構造物設置工 |  |
| □ | ②３次元設計データ作成 | □ | 舗装工 |  | ※３次元出来形管理に用いる３次元設計データの作成であり、ＩＣＴ建設機械にのみ用いる３次元設計データは含まない。 |
| □ | 付帯構造物設置工 |
| □ | ③ＩＣＴ建設機械による  施工 | □ | 舗装工  （路盤工） |  | １　３次元ＭＣ建設機械 |
| □ | ④３次元出来形管理等  の施工管理 | □ | 舗装工 |  | １ 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理  ２ ＴＳ等光波方式を用いた出来形管理  ３ ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理  ４ 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理  ５ その他の３次元計測技術を用いた出来形管理（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。  ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。  ※「①３次元起工測量」で採用した技術と相違しても良い。  ※出来形管理にあたっては、標準的に面管理を実施するものとするが、監督員と協議の上、従来手法（出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目）での管理を実施してもよい。ただし、工事竣工段階の地形について、面管理に準じた出来形計測を行う。 |
| □ | 付帯構造物設置工 |  |
| □ | ⑤３次元データの納品 |  | | | |

注 1) ＩＣＴ活用工事（舗装工）の詳細については、ＩＣＴ活用工事（舗装工）特記仕様書によるものとする。

注 2) 具体的な工事内容及び対象舗装範囲については、契約後、施工計画の提出までに、発注者へ提案・協議し決定する。

注 3) ＭＣとはマシンコントロール機能をいう。